

小学校 第4学年 国語 和室と洋室のよさをしょうかいしよう

(東京書籍 新編 新しい国語4)

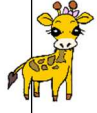
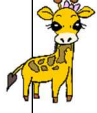
○単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方 や出典の示し方、辞書や事典の 使い方を理解し使うことができ る。	・目的を意識して、中心となる 語や文を見付けて要約するこ とができる。	・言葉が持つよさに気付くとと もに、幅広く読書をし、国語を 大切にして、思いや考えを伝 え合おうとする。

○探究の過程

①課題の設定	目的に応じて「要約する」活動を通じて、要約するときのポイントについて考える。
②情報の収集	文章の構成を捉えながら「和室」と「洋室」についてのよさを整理し、教材文の内容を理解する。
③整理・分析	自分の生活と結び付け、和室と洋室のどのようなよさを紹介するかを考える。
④まとめ・表現	自分の考える和室と洋室のよさについて、文章の要約を用いて紹介文にまとめる。

○単元計画（8時間扱い）

時	目標	学習活動	探究の 過程
1	既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持ち、教材文を読んで、文章の内容のおおよそを捉えることができる。	・3年生で学んだ「要約」ということについて振り返る。 ・単元の学習課題を確かめ、学習計画を立てる。 ・自分の考える和室と洋室のよさについて紹介し合う。	① 
2 ・ 3	教材文を読み、文章の構成を捉えることができる。	・教材文を通読し、感想をまとめる。 ・感想を共有し、紹介文につながる内容を押さえる。 ・教材文を読み、「始め」「中」「終わり」のまとまりに分け、まとまりの関係を整理する。	② 
4	自分の生活と結び付けながら「和」と「洋」のどのようなよさに着目するかを考え、教材文の中から紹介文に使う部分を選んで要約することができる。	・「和室」と「洋室」のよさを観点に沿ってそれぞれ整理する。 ・自分の生活と比べ、和室と洋室のどんなよさを紹介するのか考える。 ・選んだ言葉をつないだり、自分の言葉で言い返したりしながら要約を考える。	③ 
5 ・ 6	要約を用い、自分の生活と結び付けた紹介文を考え、まとめることができる。	・自分の生活の中で、和室と洋室のよさをどのような場面で生かせるか考える。 ・文章の結び付きから、大事な言葉を考える。 ・生活との結び付きを考え、和室と洋室どちらかを選ぶ。 ・選んだ部屋の要約を用いながら、紹介の文章を考える。	④ 
7	考えた紹介文を考え、友達と読み合うことができる。	・互いに書いた紹介文を読み、感想を伝え合う。	
8	どのように要約し、どのように自分の生活と結び付けて紹介したかを振り返り、身に付けた力を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高めることができる。	・文章の要約の方法をまとめ、気を付けたことを確認する。 ・今回の学習が、どういうときに生かせるかを考える。	

第4学年 国語科学習指導案(第1時)
【①課題の設定 単元や節を貫く課題を設定しタイ】

1 単元名 「和室と洋室のよさをしょうかいしよう」(東京書籍 新編 新しい国語4)

2 本時の計画

目標	既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持ち、教材文を読んで、文章の内容のおおよそを捉えることができる。
探究の過程 課題の設定	目的に応じて「要約する」活動を通じて、要約するときのポイントについて考える。

○指導過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点
導入 15分	○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応 1 昔話を短くまとめるとどのような話になるか考える。 ○「ももたろう」を短くまとめるとどのような話になりますか。 ◆「鬼を退治する話」 ◆「ももから生まれた人の話」 ◆「犬、猿、キジを連れて鬼ヶ島に行く話」 2 学習のめあてを確認する。 ○「要約」ということについて詳しく学習をしていく単元となります。 ◆「要約」とは何か。	一斉	◎「ももたろう」はどのような話か考える中で、大事な情報は何か、伝えたいことは何かなどを考えさせる。 課題の設定 
展開 25分	3 単元の学習課題を確かめ、学習計画を立てる。 ○教材文を読み、和室・洋室のよさについて要約を取り入れながら紹介します。 4 「和」「洋」について紹介し合う。 ○自分が知っている「和」「洋」について紹介しましょう。 ◆身近なものは食べ物だね。 ◆布団とベットは「和」と「洋」に分けられる。 ◆仲間分けすると面白い。	一斉 グループ	◎教材文からどんな和と洋があるか整理し、自分が紹介したい方の文章を選んでそれを要約することを確認する。 ◎要約を基に、紹介文を作成する活動を通して目的に応じて要約する力を身に付けることを確認する。 ◎「和」「洋」についての興味・関心を高めて、次時以降の意欲につながるようにする。 ◎「和」と「洋」の例を仲間分けし、それぞれのよさを整理しておくように指導する。
終結 5分	5 本時の学習を振り返る。 ○今日の学習から、分かったことをまとめましょう。 ◆要約はまとめることということが分かった。 ◆和室がよいと考える理由が分かった。	一斉	◎学習を振り返ったり、板書から次時以降の学習活動を確認したりする。

第4学年 国語科学習指導案(第2・3時)
【②情報の収集 知識・技能を身に付けさせたい】

1 単元名 「和室と洋室のよさをしょうかいしよう」(東京書籍 新編 新しい国語4)

2 本時の計画

目標	教材文を読み、文章の構成を捉えることができる。
探究の過程 情報の収集	文章の構成を捉えながら「和室」と「洋室」についてのよさを整理し、教材文の内容を理解する。

○指導過程(2時間目)

段階	学習活動	形態	指導上の留意点
導入 5分	○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応 1 本時のめあてを確かめる。 ○文章を読み、内容をつかみ、感想を伝え合いましょう。 ◆前の時間に考えた「和」や「洋」とは何が違うのだろう。	一斉	◎教材文を読み、内容のおおよそを捉えていくことを確認する。
展開 35分	2 教材文を読み、感想や考えたことをまとめる。 ○教材文を読み、和室と洋室の違いや、それぞれのよさをまとめましょう。 ◆和室の方が部屋を自由に使えるんだ。 ◆洋室は確かに使い方が決まっている。 3 教材文を読み、「洋室のよさ」「和室のよさ」を確認する。 ○教材文を読み、「洋室のよさ」「和室のよさ」を整理しましょう。 ◆③～⑬の中から見付けるんだよね。 ◆段落ごと「和室」「洋室」交互に出てくるからそこから整理しよう。 4 感想をグループで伝え合う。 ○読んで考えた感想を伝え合いましょう。 ◆洋室は使い方が決まっているということ、和室は使い方が自由だという違いがよく分かった。	個別 グループ	◎形式段落を確認させる。 ◎特に和室と洋室の違いや、それぞれの持つよさに着目して考えさせる。 ◎なかなか違いやよさを見付けることができない児童がいた場合は「違いは」「これに対して」などの言葉を探させたり、③～⑦段落で、和室と洋室について書かれているところに色分けして線を引かせたりする。 ◎「中」を中心に整理することを確認する。 ◎「対して」という言葉があるところは、どちらのよさも書いてあるところであることを確認する。 ◎「和室」「洋室」一目で分かるように整理する。
終結 5分	5 学習のまとめをする。 ○学習を振り返り、分かったことを発表しましょう。 ◆「和室」と「洋室」を比べ、それぞれのよさが分かった。	一斉	◎次時以降は文の構造を読み取っていくことを確認する。



○指導過程（3時間目）

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 本時のめあてを確かめる。 ○文章を読み、「始め」「中」「終わり」に分け、文章の構成を考えましょう。 ◆「中」が一番詳しく書いてあるところじゃないかな。	一斉	◎教材文を読み、3つに分ける分け方を思い出させる。
展開 35分	2 教材文を読み、3つに分ける。 ○「くらしの中の和と洋」を読み、①から⑮を「始め」「中」「終わり」の3つに分けましょう。 ◆③からは「和室」「洋室」の話が始まっているから、そこからは「中」になるね。 ◆筆者は「和室」「洋室」はどちらにもよさがあることを言っていたから、それが「終わり」だね。 3 「始め」「中」「終わり」に書かれていることについて話し合う。 ○「始め」「中」「終わり」の部分に書かれていることを話し合しましょう。 ◆「始め」は①②段落だから、「和」と「洋」がくらしの中にあるという紹介だね。 ◆③から⑬までが「中」だった。 ◆「終わり」はまとめだった。 4 「始め」「中」「終わり」それぞれのまとまりの関係を考える。 ○「始め」「中」「終わり」それぞれのまとまりの関係を考えましょう。 ◆「和」と「洋」の紹介を受けて「中」は部屋の話をしているね。 ◆「中」には「和室」「洋室」のよさが詳しく書いてある。 ◆「終わり」は「中」までを受けてまとめている。	個別 グループ 一斉	◎形式段落を確認し、番号を使って考えるようにさせる。 ◎形式段落の最初の言葉や文章の終わり方を見て分けることを確認する。 ◎段落ごとに何が書かれているかを順番に整理し、その後、「始め」「中」「終わり」で見直す。 ◎「中」は大きく「和室と洋室の違い」「過ごし方」「部屋の使い方」になっていることを捉えさせる。 ◎和室と洋室の違いを段落ごと交互に示していることに触れ、文章の構成について確認する。 情報の収集 
終結 5分	5 学習のまとめをする。 ○学習を振り返り、分かったことを発表しましょう。 ◆「始め」「中」「終わり」で分けて読むと、書いてあることが整理しやすい。	一斉	◎次時以降は、本時までに学んだことを踏まえ、紹介文を作っていくことを確認する。

【③整理・分析 情報を分析させタイ】

2 本時の計画

○指導過程

第4学年 国語科学習指導案(第5・6時)
【④まとめ・表現 相手意識を持った表現活動をさせたい】

1 単元名 「和室と洋室のよさをしょうかいしよう」(東京書籍 新編 新しい国語4)

2 本時の計画

目標	要約を用い、自分の生活と結び付けた紹介文を考え、まとめることができる。
探究の過程 まとめ・表現	自分の考える和室と洋室のよさについて、文章の要約を用いて紹介文にまとめる。

○指導過程(5時間目)

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 めあてを確認し、活動の見通しを持つ。 ○文章を選び、その文章を使って紹介文を書く活動を行います。	一斉	◎教材文から文章を選び、それを用いて紹介文を書く活動を行うことを確認する。
展開 35分	2 文章をまとめる前に確認しておくことやその手順を確かめる。 ○自分の生活を振り返りながら、要約を使い、自分の考えをまとめましょう。 ◆私は洋室について紹介したい。 ◆自分の家は洋室が多く、どの部屋も目的がある。 3 紹介文のまとめ方を考える。 ○紹介文の書き方を考えましょう。 ◆自分の言いたいことは、「終わり」に書く。 ◆自分が紹介したいよさを分かりやすく伝えるために要約を用いるんだね。 ◆「始め」でまずは和室を選んだことを書こう。 ○考えたことを順序よく、紹介する文にまとめていきましょう。 4 紹介文にまとめる。 ○自分の家の様子なども踏まえ、紹介文を書きましょう。 ◆書き出しが分からない。 ◆自分の家ではどうなっているかな。	一斉 個別 個別	◎前時に書いた要約や、選んだ言葉を用いながら考えさせる。 ◎「始め」「中」「終わり」の3つで構成することを伝える。 ◎「和室」「洋室」のどちらかを選び、その上で「中」で詳しく説明をすることと前時までの要約を用いることを確認する。 ◎書き出しが分からない児童は、「私は洋(和)室の過ごし方のよさを紹介します。」の書き出しを示す。 ◎なかなか書くことができない児童には、自分の家での過ごし方と、教材文から同じところを探させて、それについて説明させる。 例 家ではいすに座ることが多い。それは・・・ ◎要約した際に入れた言葉が入っているか確認させる。 まとめ・表現



